

本スタンダードの背景

《これからの教員に求められる資質能力とは?》

- (i) 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)
- (ii) 専門職としての高度な知識・技能
 - ・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)
 - ・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)
 - ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力
- (iii) 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

※「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(中央教育審議会答申 平成 24 年 8 月 28 日) より抜粋

《都市部の抱える教育課題と求められる人材》

- (1) 都市部では、教員の大量退職・大量採用に伴い、急速な世代交代が進行している。そのため、学校組織マネジメントの中核を担う人材が求められている
- (2) 人材確保の困難さから、研修等を十分に受ける機会の少ない臨時的任用職員や非常勤講師の数が多。その結果、OJTの重要度が増しており、その中心となる人材が求められている。
- (3) ICT教育、外国語教育、小中一貫教育など、全国に先駆けた先進的な取組が求められており、その推進役となる人材が求められている。
- (4) 都市部の学校は、ともすると地域との関係が希薄になりがちである。「地域の教育資源の活用」や「地域に開かれたカリキュラムの創出」といった観点から、地域との連携を推進することのできる人材が求められている。

《本学における特徴的な取組》

- (1) 連携協力校との連携
現職教員の在籍校を連携協力校に認定し、大学と学校が協働して、学校及び地域の教育課題解決に取り組む。
- (2) 附属学校の活用
5つある附属学校がそれぞれに取り組んでいる特色ある教育活動に学ぶ。学生は、希望する学校の研究実践に参加することができる。
- (3) 基本実習とメンタリング実習
一般的な基本実習のほか、主に教員間の協働性を活性化するための教職メンタリングの角度からの実習を行う。

1. 横浜国立大学教職大学院での学びのゴールは?

ストレートマスター

学部の授業や教育実習などで学んできたことを具体的な教育実践と結び付けて捉え直すことにより、新しい学校づくりの推進者となる素地を養うこと。

スクールリーダー (現職教員)

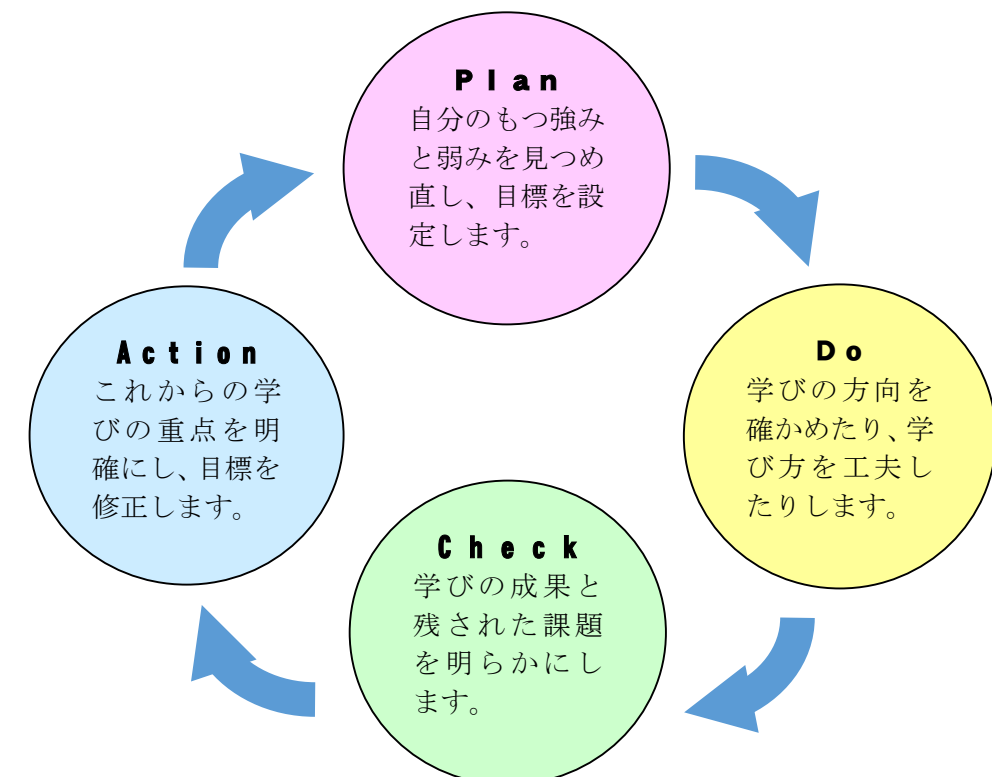
学校や地域が抱える教育課題に対し、同僚性を構築しながら課題解決することのできる、リーダー性のある中核教員となること。

2. このスタンダードの特色は?

- 現職の教員であるかないかによって学ぶべき内容が異なると考え、ストレートマスターとスクールリーダー (現職教員) とに分けて記載してあります。
- 到達段階を測る評価基準の形ではなく、実現状況を見る評価規準の形で作成されています。卒業までに、ここに掲げられたすべての項目について、「おおむね実現している」状況になることが望まれます。

3. 使い方は?

- 学びは、PDCAの繰り返しの中で深化していきます。長いスパンや短いスパン、様々なスパンにおけるPDCAのプロセスの中で、このスタンダードを適宜活用してください。



領域	観点	項目	
		A ストレートマスター	B スクールリーダー（現職教員）
I 教師に求められる基盤的資質	(1)教職への熱意	教職への熱意をもち、探究心を絶やさず、自主的に学び続けている	教師としての自分の実践を振り返り、課題と成果を客観的にとらえ直し、今後の実践に生かそうとしている
	(2)社会性・同僚性	社会人としての自覚をもつとともに、周囲の人間と共に学び合う関係を築こうとしている	職場における同僚性の大切さと、それを高めていく方策について考察し、学校の教育力の向上に生かしている
	(3)コミュニケーション能力	自己を積極的に表現するとともに、他者を共感的に理解し、相互に良好な関係を築くことができる	コミュニケーションの重要性を理解し、良好なコミュニケーションを通して自他の向上を図ることができる
	(4)コンプライアンス・服務	社会的な注目度の高い教員としての、コンプライアンスの重要性や服務規律の厳格さについて理解している	教員として適切なコンプライアンスや服務を実践するとともに、他の教員に指導・助言することができる
	(5)健康管理	健康を維持することの重要性を認識し、規則正しい生活を送っている	自分の健康はもとより、同僚の健康にも配慮し、働きやすい職場環境の実現に努力している
II 教科等の指導と評価	(1)カリキュラムマネジメントについての理解	カリキュラムを学校で作成・管理することの意味と方法を理解している	これからのカリキュラムマネジメントに求められる方向性や PDCA サイクルの重要性について理解している
	(2)教育課程の編成	各種法規や学習指導要領を知るとともに、それに基づいて学校で行われる教育課程編成の重要性について理解している	教育改革の動向や学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、地域の特性や学校の教育資源、児童生徒の実態などを考慮して、学校の教育課程についてのモデル案を示すことができる
	(3)年間指導計画の作成	年間指導計画について、学習指導要領や学校の教育課程と結び付けて理解している。	学習指導要領に基づき、学習内容の系統性や他教科等との関連、学校の教育資源の活用などを考慮しながら、一教科以上の年間指導計画を編成することができる
	(4)学習指導案の作成と授業の展開	学習指導案に求められるべき基本的な内容について理解し、作成することができる	他の教師からの求めに応じ、学習指導案の作成や授業展開の方法について、適切な助言を行うことができる
	(5)教材開発・指導方法の工夫	児童生徒の興味関心を高め、思考を促す教材開発の方法や、指導方法改善の重要性について理解している	指導効果の高い教材を開発したり、課題解決型の学習や協働的な学びなどをデザインしたりすることができる
	(6)目標と評価の一体化	目標の明確化と評価の重要性、並びに両者の一体化について理解するとともに、評価観の変遷について学んでいる	具体的な学習指導案において目標や評価規準を設定するとともに、具体的な指導のあり方を提案することができる
	(7)授業評価と授業研究の推進	授業研究の重要性を理解し、参観した授業を自分なりの視点で評価することができる	自他の授業を分析し、その長所と改善点を指摘したり、自らがリーダーとなって研究を推進したりすることができる
	(8)横断的・総合的な学習	横断的・総合的な学習（グローバル教育やキャリア教育を含む）の意義や内容、方法について理解している	クロスカリキュラムの理論や方法について知り、学校全体での取組をコーディネートすることができる
	(9)教育の情報化	学習指導において ICT を適切に活用することができるとともに、その活用効果について理解している	ICT 活用、情報教育について、その効果と課題を理解するとともに、学校全体の情報化を推進することができる

領域	観点	項目	
		A ストレートマスター	B スクールリーダー（現職教員）
III 児童生徒指導	(1)学年・学級経営	学年・学級経営で大切なことについて学んだり、実際の学級に入って考察したりしている	文献やフィールドワークなどを通して自分の学年・学級経営について省察し、継続すべき点や改善すべき点をまとめることができる
	(2)インクルーシブ教育・特別支援教育	インクルーシブ教育及び特別支援教育の意義や現状について理解している	特別な支援を必要とする児童生徒の実態を把握し、指導の充実を図るための提案を行うことができる
	(3)児童生徒の理解と指導	学校現場に出かけたり子供たちの活動に参加したりするなどして、児童生徒を積極的に理解しようとしている	具体的な事例をもとに、個と集団の関係、成育歴の及ぼす影響などについても考察し、指導法を提案したり、必要に応じて指導のコーディネートをしすることができる
	(4)教育相談	教育相談の重要性を理解し、その具体的な方法について学んでいる	過去の事例を分析したり改善点を検討したりして、教育相談の重要性を再確認している
	(5)いじめ・不登校対策	様々な事例を知り、その対策の現状について理解しようとしている	問題行動の背景を捉え、具体的な対応方法を考えたり、対応に当たって配慮すべき点を説明したりすることができる
IV 学校マネジメント	(1)教育行政・教育制度	教育委員会の組織・役割や、新しい教育制度が生まれたわけについて理解している	教育委員会等の特色ある取組について理解するとともに、これからの時代を生きる人材の育成という観点から、新しい教育制度の必要性や課題、今後の方向性について考えている
	(2)学校組織マネジメント	学校の教育活動における組織的な取組の重要性を理解している	学校組織におけるマネジメントの重要性を理解するとともに、その中核となって推進することができる
	(3)経営ビジョンの構築と学校評価	学校のグランドデザイン作成やその評価の重要性について理解している	学校経営についてのビジョンを構想してグランドデザインを作成したり、その評価・改善についての方策を考えたりすることができる
	(4)人材育成	OJT と Off-JT の、それぞれの特徴について理解している	OJT の意義や方法を知り、それらを活用して人材を育成したり、チームとしての学校づくりを推進したりすることができる
	(5)メンタリング	メンタリングの重要性と、その方法・技術について理解している	同僚教員や経験の浅い教員に対し、メンター教師としてメンタリングを行うことができる
	(6)学校教育における課題	最近の教育課題について関心をもち、書籍などを活用して理解しようとしている	最近の教育課題とその解決策について、分かりやすく説明したり、自分の考えを述べたりすることができる
	(7)学校外組織との連携・協働	学校と保護者・地域・他の教育機関や専門家等と連携することの重要性を理解している	保護者・地域・他の教育機関や専門家等との連携の重要性を説明したり、その具体例を紹介したりすることができる
	(8)危機管理	学校事故等の事例を学ぶとともに、危機管理の重要性を理解している	危機を未然に防ぐための具体的な方策を考え、勤務校において提案することができる